

## 指導力評価に関するチェックリストの項目一覧

- ※1 本資料は、コーディネーターや指導者に求められる能力について検討するため、「生活日本語の指導力の評価に関する調査研究報告書」（平成23年3月、財団法人日本国際教育支援協会）に掲載されている「生活日本語の学習を支援する教室運営のためのチェックリスト（案）version 2」及び「生活者日本語の指導能力の評価に関する調査研究」（平成23年3月、公益社団法人国際日本語普及協会）の「指導者can-doリストA」を取り上げ、「生活者としての外国人」に対する日本語教育における標準的なカリキュラム案 活用のためのガイドブック」の「4 日本語教育プログラムの作成手順」の項目に沿って並べたものである。
- ※2 以下の表において、色が付けられている欄の文言は「生活者としての外国人」に対する日本語教育の標準的なカリキュラム案 活用のためのガイドブック」から、色が付いていない部分の文言は※1にある報告書から転載したものである。

PLAN-DO- CHECK-ACTIONの別	
指導力評価に関するチェックリストの項目	
<b>PLAN</b>	
1. 域内の外国人の状況・ニーズ、地域のリソース等の把握	
1)対象とする学習者の属性や数の把握	
(1)対象者に関する情報を収集している	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者の属性（年齢，職業，学習履歴など）を把握している</li> <li>・対象者の数を把握している</li> <li>・対象者が学習活動に求めるものや学習目的，目標等を的確に把握している</li> <li>・対象者が今何ができて何ができないかを的確に把握している</li> <li>・対象者が置かれている生活環境を把握している</li> <li>・対象者を取り巻く学習環境（辞書やオーディオ機器・PCなどを所有しているかなど）を把握している</li> <li>・対象者の意向や要望をよく聞く仕組みがある</li> <li>・対象者から学習に関する相談を定期的に受ける仕組みがある</li> </ul>	
2)生活課題の把握	
3)地域のリソースの把握	
(2)コーディネーターの配置と役割が適切である	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・コーディネーターが誰か明確である</li> <li>・コーディネーターの役割が事業者・学習支援者等の関係者間で理解されている</li> <li>・コーディネーターは学習支援者と十分にコミュニケーションがとれるようになっている</li> <li>・コーディネーターを育成する仕組みがある</li> <li>・コーディネーターが自ら学ぶ機会を確保している</li> </ul>	
(3)コーディネーター本人の姿勢	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界情勢，外国人問題，日本語教育等に関わる情報を広く収集し，学び続ける姿勢を持つことができる</li> <li>・さまざまな視点から外国人問題を見ることができる</li> <li>・教室をコミュニティー(小さな社会)として育てるという視点を持つことができる</li> <li>・参加者や他のコーディネーターと密に連携をとり，協働作業をすることができる</li> <li>・地域の関係者，協力者，住民，その他さまざまな専門家との協働作業をすることができる</li> <li>・日々の活動を，Plan- Do - Check - Action の視点で観察，分析，評価することができる</li> <li>・地域の協力者やさまざまな分野の専門家と協働して教室活動を行うことができる</li> </ul>	

- ・参加者や他のコーディネーターと密に連携をとり、協働作業をすることができる

#### (4)人材の育成

- ・教室の理念を理解し、教室に主体的に関わろうとする人材を育成することができる
- ・支援者に不足しているものを見極め、それを補うための研修を企画し、実施することができる
- ・地域の人材育成に関する講座やセミナーの情報を集め、適切なものを紹介することができる
- ・学習者の一部が支援者として育つよう支えることができる

#### (5)支援者の育成

- ・活動を通して、支援者の意識の変容を促し、学習者と共に学ぶという気持ちや姿勢を育成することができる
- ・活動する上で不足しているものを見極め、それを補う研修を企画し、実施することができる
- ・言語学習を促進する観点から支援者を育成することができる
- ・多様な観点による言語教育や他分野（社会福祉など）の理論の実践に関心を持ち、学ぶ姿勢を持つことができる

#### (6)学習支援者の配置と役割が適切である

- ・日本語教育について経験・知識・能力がある学習支援者を確保している
- ・外国人支援について経験・知識・能力がある学習支援者を確保している
- ・学習支援者を育成する仕組みがある
- ・学習支援者と活動の理念や大事にしたい考え方を確認しあう機会を設けている
- ・学習支援者に何を求めるかが明確である
- ・その日の活動を担当する学習支援者が決まっている

#### (7)学習支援／日本語教室をより良くするための地域の様々な情報を収集している

- ・自分たちの活動地域にいる日本語教育の専門家を把握している
- ・自分たちの活動メンバーや関係者以外の外部の協力者を確保している
- ・自分たちの活動に協力してくれる組織を確保している
- ・外国人支援を通して解決できる地域の課題を理解する仕組みがある

#### (8)学習支援／日本語教室のために適切な場所がある

- ・支援活動／日本語教室を行う場所を確保している
- ・対象者やその他の人が集まりやすいように場所の利便性を考慮している
- ・移動手段を持たない対象者が通いやすいように工夫をしている
- ・活動場所では幼児や年少者、老人等の安全性に配慮している

#### (9)学習支援／日本語教室を行うための適切な環境を準備している

- ・対象者が通いやすい時間と曜日に活動／教室を開設している
- ・支援活動／日本語教室を行う場所には関係者以外のグループも別の活動を行っているなど、他のコミュニティと接する機会を設けている
- ・活動に使用するいすや机などの使い勝手（大きさや、移動性など）がよい
- ・活動を行うのに十分な広さを確保している
- ・必要に応じて、ホワイトボードやオーディオ機器等の教具・機器を確保できるようになっている
- ・必要に応じて、PC環境やインターネット環境を確保できるようになっている

## 2. 日本語教室の目的や設置場所等についての検討

### 4)日本語教室の目的を設定

#### (10)活動のやり方やカリキュラム(中期的な学習計画)が適切である

- ・学習目標を明文化している
- ・学習目標を達成するために適当な学習期間を設定している
- ・必要に応じて学習期間に区切りをつけ、短期的・中期的な目標を立てるようにしている
- ・対象者の状況に合わせ、短期・中期・長期それぞれの学習目標を明確にする機会を設けている
- ・学習内容の全体像を関係者間で共有できるように明文化している

## 5) 学習者のニーズ、地域のリソースに基づいた教室の設置

### (11) 教室の企画、立ち上げ

- ・ 地域の外国人や既存の日本語学習支援体制の状況を調査し、把握することができる
- ・ 地域の実情に合わせた教室を企画し、関係機関に提案することができる
- ・ 地域の諸機関や他のコーディネーターと協働して教室を立ち上げることができる

### (12) 活動の現状を共有・活用している

- ・ 活動の理念や目的等を共有する仕組みがある
- ・ 対象者の基礎的な情報や学習の進捗情報を共有する仕組みがある
- ・ 教室の場所や時間、学習内容について定期的に関係者間で検討する仕組みがある

### (13) 先行する事例を共有・活用している

- ・ 先行する他地域の事例や、自分たちの過去の取り組みを何らかの形でまとめている
- ・ まとめられた情報を使いやすいように分類・整理し一括管理している
- ・ 学習支援や教室活動の参考になる資料を豊富にそろえている
- ・ インターネット等を活用して、学習支援や教室活動の参考資料を探せるよう、情報環境を整えている

### (14) 活動の意義や内容を発信している

- ・ 活動内容を広く一般に情報発信する仕組みがある
- ・ 活動内容が参加を希望する対象者に届きやすいように、発信方法を工夫をしている

### (15) 他機関や地域との連携

- ・ 教室の企画、立ち上げ、運営に関わる地域の諸機関と人的ネットワークを構築し、維持することができる
- ・ 地域住民と教室が関わられるような仕組み、仕掛けを作ることができる
- ・ 教室の必要性や活動内容を外部に発信していくことができる

## 3. 具体的な日本語教育プログラムの作成

### 6) 学習内容、学習順序、学習時間、指導者・協力者、教室活動について検討

#### (16) 活動のデザイン

- ・ 学習者を地域社会の生活者として捉え、必要な事項を優先させて活動をデザインすることができる
- ・ 学習者のライフステージを考慮して活動をデザインすることができる
- ・ 学習者の日本語力を考慮して活動をデザインすることができる
- ・ 学習者が実生活で抱えている課題を把握し、妥当なニーズに設定し直して、活動として作り上げていくことができる
- ・ 学習者と支援者が共通に持つ課題を活動のテーマに取り入れることができる
- ・ 教室運営を取り巻く事情を活用したり、補完したりすることが可能な活動をデザインすることができる
- ・ 教室内での活動と教室の外での活動の連携をはかることができる
- ・ 学習者が活動テーマを選んだり、活動の進行に貢献したりできる活動をデザインすることができる
- ・ 教室活動の実施条件に合わせて、日本語の学習を促進する活動をデザインすることができる
- ・ 社会参加の視点から多面的に捉えた段階性を踏まえて、言語学習の活動をデザインすることができる
- ・ 学習者の学習スタイルや言語学習のストラテジーを踏まえた活動をデザインすることができる
- ・ 参加者全員が対等な関係を壊さずに行える活動をデザインすることができる
- ・ 学習者と支援者の協働によって行われる活動をデザインすることができる
- ・ デザインした活動を実践するための環境を整えることができる
- ・ 1回の活動を組み立てることができる

<b>(17)活動のやり方やカリキュラム(中期的な学習計画)が適切である</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者が多様でも対応できるように、活動や学習の方法を考慮している</li> <li>・学習を進めるにあたって、対象者の日本語レベルを考慮している</li> <li>・対象者の生活上のニーズを考慮して学習活動を行えるようにしている</li> <li>・コーディネーターと学習支援者の間で、学習活動や日本語指導の方法・方針を明確にしている</li> </ul>
<b>(18)毎回の活動計画や学習計画が適切である</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の学習内容を何らかの形で明文化している</li> <li>・対象者にとって興味深い内容になるよう工夫している</li> </ul>
<b>(19)教材や教具を適切に活用している</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者の学習目的を達成するために効果的な教材や教具等を用意している</li> <li>・学習に市販のものを使用する際には、著作物の取り扱いを法律に沿って行っている</li> </ul>
<b>(20)学習支援／教室の準備をしている</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・前回の活動内容や学習内容を把握している</li> <li>・今回の活動内容や学習目的を明確にしている</li> <li>・今回の活動や学習に関連する教材や教具・資料を準備している</li> <li>・活動や学習の流れや時間配分を考えている</li> <li>・計画した内容や流れが予定通りにいかなかったときの代案を考えている</li> </ul>
<b>(21)学習支援／教室環境を整えている</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・対象者数や活動・学習内容によって教室環境を準備している</li> <li>・必要な教具や資料など、みんなが共通で使うものを使いやすく整理・保管している</li> <li>・必要な機器(PCやテレビ、DVD、オーディオ)を管理・保管している</li> <li>・必要な機器(PCやテレビ、DVD、オーディオ)の使い方を、関係者それぞれが理解している</li> </ul>

## DO

### 4. 各地域の実情に応じた日本語教育の実施

#### 7)教室の運営・育成

<b>(22)教室の運営・育成</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・教室運営に必要な作業を洗い出し、実情に即した運営体制を作ることができる</li> <li>・参加者の適性や志向、能力をふまえて、教室運営に関わる役割に適切に配置することができる</li> <li>・教室運営や活動に関する参加者の意見、問題意識を吸い上げることができる</li> <li>・教室の現状を適切に把握、評価し、問題に気づくことができる</li> <li>・教室に生じた問題に適切に対応することができる</li> <li>・教室の新たな課題、目標を設定することができる</li> <li>・新たな参加者を教室外から集めることができる</li> <li>・教室運営に必要な協力者を集めることができる</li> <li>・教室設立の理念(教室を作った目的、地域の中での教室の役割、それらを踏まえた活動方法等)をわかりやすく言語化し、参加者全員に伝えることができる</li> <li>・参加者相互の人間関係を調整し、参加者同士が関係性を築いていけるような教室を作ることができる</li> <li>・参加者に関する必要な情報を把握している</li> <li>・参加者の参加状況を把握しており、必要な場合は対処することができる</li> </ul>
<b>(23)対話中心の活動の促進</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者(学習者と支援者)に対話活動の目的を理解させることができる</li> <li>・支援者が日本語の説明や教授に時間をかけている場合、支援者にそのことを気付かせ、対話活動に向けさせることができる</li> <li>・活動が行われる教室の事情に合わせて、適切な話題を提供することができる</li> <li>・支援者、学習者間の双方向の発話を促すことができる</li> <li>・参加者が話しやすい雰囲気を作ることができる</li> <li>・対話を通して言語学習を起すことができる</li> </ul>

- ・ 学習者の日本語力に合わせて適切な話題を提供することができる
- ・ 日本語力の不足のため活動が円滑に進まないとき、適切な支援をすることができる
- ・ 対話中心の活動を識字教育と連携させることができる

#### (24) 課題達成型の活動の促進

- ・ 活動の目的に合わせて、現実の課題の中から適切な課題を選ぶことができる
- ・ 課題達成型の活動の中にも対話中心の活動を織り込むことができる
- ・ 活動の環境に合わせて、現実の課題を活動に適したサイズに切り取ることができる
- ・ 活動の目的と環境に合わせて、活動を分析し、達成するために必要な下位能力を記述することができる
- ・ 活動の目的と環境に合わせて、活動の手順を組み立てることができる
- ・ 参加者が課題の達成を実感したり、達成できなかった場合の原因を理解したりできるように、活動を展開することができる
- ・ 課題達成型の活動を識字教育と連携させることができる

#### (25) 日々の記録を付けている

- ・ 活動や学習に関する記録を残している
- ・ 活動中・学習中の対象者の様子を記録している
- ・ 学習目標がどのくらい達成できたか把握・記録している
- ・ 毎回の成果と次回への課題を記録している

#### (26) 日々の記録を共有している

- ・ 各対象者の様子など、個別の記録を関係者間で共有している
- ・ 活動の工夫を、コーディネーターや学習支援者間で共有している
- ・ 学習支援者間で、建設的に意見を出しあえる機会を設けている
- ・ コーディネーターと学習支援者が気軽に相談できる機会を設けている
- ・ 対象者や学習支援者仲間、コーディネーター等の意見に基づき、活動を工夫している

#### (26) 日々の記録を整理し、まとめている

- ・ 日々の活動や学習の記録を、分類整理して蓄積し共有している
- ・ 過去の取り組みを資料にまとめている
- ・ 現在の取り組みを以後に活用できる体制を整えている

## CHECK

### 5. プログラムの見直し

8)

#### (27) 学習支援や教室実施時の状況を把握している

- ・ 期間中に生じた活動や教室の問題を把握している
- ・ 期間を通じた対象者の変化を把握している
- ・ 期間を通じた学習支援者の変化を把握している
- ・ 期間中の教室開催場所や開催時間について把握している
- ・ 活動のやり方やカリキュラム・教材の運用の状況を把握している
- ・ 関係者間で情報共有がうまくいっているかどうかを把握している

#### (28) 関係者の声を収集している

- ・ アンケートなどを使って対象者の満足度や要望を聞き取る仕組みがある
- ・ アンケートなどを使って学習支援者の満足度や要望を聞き取る仕組みがある
- ・ 学習支援者がコース全体や自分自身を振り返る仕組みがある
- ・ コーディネーターがコース全体や自分自身を振り返る仕組みがある
- ・ 振り返りを関係者間で共有する仕組みがある
- ・ 地域住民や協力者、学習者の家族などから意見を聞き取る仕組みがある

	<b>(29) 当初の計画どおりに実施できたことと、途中で計画を変更したことについて把握している</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計画どおりに実施できたことを把握している</li> <li>・ 計画どおりに実施できなかったことを把握している</li> <li>・ コース途中の計画変更によるプラスの影響とマイナスの影響を把握している</li> </ul>
	<b>(30) 具体的な実施状況を分析している</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コース管理・運営上の課題を分析している</li> <li>・ 活動のやり方や内容、方法の現状と課題を発見・分析している</li> <li>・ 毎回の個別の学習活動を分析して、活動の良しあしを自己評価している</li> <li>・ さまざまな分析方法を提供してくれる専門家を確保している</li> </ul>
	<b>(31) 一定期間の活動の成果を客観的な視点で分析している</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 活動に関する問題の原因を分析するために、様々な見方から考えようとしている</li> <li>・ 自分たちの活動や学習支援の社会的意義を、意見・感想・コメントなどを分かりやすくまとめて第三者に伝えられるようにしている</li> <li>・ 自分たちの活動や学習支援の社会的意義を、数字やグラフ等を利用して分かりやすく第三者に伝えられるようにしている</li> </ul>
	<b>(32) 分析結果を適切に解釈している</b>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分たちの分析結果が客観的なものかどうかを関係者間で議論する機会を設けている</li> <li>・ 自分たちの分析結果が客観的なものかどうかをアドバイスしてもらうために専門家の協力を得ている</li> <li>・ 分析結果を適切に解釈するために批判的かつ建設的に意見を交換している</li> </ul>	
<b>(33) 改善活動を円滑に行うために分析・解釈結果を整理している</b>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分析や解釈の結果を分かりやすく整理している</li> <li>・ 分析や解釈の結果を共有する仕組みがある</li> </ul>	

## ACTION

6.

9)

	<b>(34) 改善計画を検討している</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ コーディネーターと学習支援者が改善計画を考える機会を設けている</li> <li>・ 改善計画を関係者間で共有する仕組みがある</li> <li>・ 何を改善すれば問題が解決できるかを理解している</li> <li>・ 複数の解決策を考えている</li> <li>・ 改善計画に学習者の声を反映している</li> <li>・ 効果的な改善活動を行うため、役割分担や今後の計画を明確にしている</li> </ul>
	<b>(35) 改善活動を実施している</b>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 関係者間で役割分担・協力して改善活動をしている</li> <li>・ 改善活動の結果がそもそもの目的と食い違いがないかを振り返って考える仕組みがある</li> <li>・ コーディネーターや学習支援者が改善活動に素早く取り組めるための環境が整っている</li> <li>・ 現場の改善活動を関係者間で尊重する仕組みがある</li> <li>・ 以後の改善活動を行うために一連の活動を記録する仕組みがある</li> </ul>